

季刊

博物館だより

FUKUSHIMA MUSEUM
QUARTERLY

URL <http://www.general-museum.fks.ed.jp>

109

震災復興・国立科学博物館コラボミュージアム in 会津若松

対決！恐竜展

ティラノサウルスとトリケラトプス

福島県立博物館



©Utako Kikutani



©Utako Kikutani

震災復興・国立科学博物館コラボミュージアム in 会津若松

「対決！ 恐竜展」

ティラノサウルスとトリケラトプス



トリケラトプス全身復元骨格 標本：国立科学博物館 蔵

アロサウルスも羽毛恐竜だった？ ティラノサウルスの短い前肢には、立ち上がるときに体を支える役割があった？ トリケラトプスの前あしの向きを推定する新たな仮説とは？

今回の展示では、北アメリカ大陸から、ジュラ紀の肉食恐竜アロサウルスと植物食恐竜カンプトサウルス、そして最強の肉食恐竜といわれて名高い白亜紀後期のティラノサウルス、これと同時に植物食恐竜トリケラトプスがやって来ます。いずれも最新の研究成果にもとづいて復元された、迫力ある姿です。さらにモンゴルから、アジアのティラノサウルス、ともいわれるタルボサウルスも登場！

このほか、当館所蔵の標本から、サウロロフスとプロトケラトプスの頭骨、ヴェロキラプトルの産状復元など、アジアの恐竜化石も合わせてご紹介します。さらに、ジュラ紀、白亜紀の多数の動植物化石を展示して、当時の生きものの姿をさぐります。

恐竜時代の地層は福島県内にも分布しています。相馬地域には、主としてジュラ紀に堆積した相馬中村層群がみられ、その中の板窪層からは、たくさんの植物化石とともに恐竜の足跡化石が見つっています。またいわき地域には、白亜紀の浅海に堆積した双葉層群が分布しており、そこからは恐竜の歯や骨の一部などが見つっています。展示では、これらの化石とともに、ジュラ紀のシダ植物や裸子植物、白亜紀のアンモナイトなど、県内で見つかった中生代の代表的な動植物化石も多数紹介します。

今回の企画展「対決！ 恐竜展 ティラノサウルスとトリケラトプス」は、国立科学博物館と全国科学博物館振興財団が実施する「震災復興・国立科学博物館コラボミュージアム」の一環として、同博物館および財団と福島県立博物館の三者による主催で行われます。「コラボミュージアム」は、東日本大震災で大きな被害を受けた東北地方の各県で、多くの方々に元気を取り戻してもらおうと、恐竜アロサウルスの全身骨格を巡回展示するとともに各種の科学イベントを開催し、同時に各県の博物館等の施設が連携することを目的として実施されている事業です。当館ではアロサウルスに加え、国立科学博物館よりティラノサウルスやトリケラトプスなど、合計五種類の恐竜をお借りして大規模な企画展とすることができました。

迫力ある恐竜の姿とともに、数多くの化石資料とおして、人類の時代よりはるか昔の地球上で繰り広げられた大自然のドラマを感じる機会にいただければ幸いです。



ティラノサウルス全身復元骨格 標本：国立科学博物館 蔵

本年度、「震災復興・国立科学博物館コラボミュージアム」は、当館を含め福島県内の左記の施設で開催されます。★印の会場には恐竜アロサウルスの全身復元骨格が展示されます。なお、五種類の恐竜全身骨格が展示されるのは福島県立博物館だけです。

①いわき市石炭化石館★(五月一六日～七月二二日) ②福島県立博物館★(七月二七日～九月一六日) ③小野町ふるさと文化の館★(一〇月五日～一二月四日) ④福島県郡山自然の家(一二月七日～二月一五日) ⑤福島県文化財センター白河館★(二月四日～二月九日) ⑥国立那須甲子青少年自然の家(二月一八日～三月一〇日) ⑦猪苗代町体験交流館★(二月一日～三月二日)

◎震災復興・国立科学博物館コラボミュージアムは国立科学博物館賛助会員・全国科学博物館振興財団の支援をいただいています。

○企画展記念講演会

演題「最新恐竜学」
日時：八月一日(日)一三：三〇～一五：〇〇
講師：国立科学博物館研究主幹 真鍋 真氏

○企画展イベント

「夏休み恐竜ナイトミュージアム」(要申込)
日時：八月七日(土)一七：三〇～一九：〇〇
定員：一〇〇名

○実技講座「ペーパーアートで恐竜をつくらう」(要申込)
日時：八月二四日(土)一三：三〇～一五：〇〇
講師：美術家 半沢政人氏

○展示解説会(企画展観覧料が必要)

七月二八日(日)一三：三〇～一四：三〇
講師：学芸員 相田 優
八月一日(日)一五：三〇～一六：三〇
(企画展記念講演会終了後)
講師：国立科学博物館研究主幹 真鍋 真氏
九月一六日(月)一三：三〇～一四：三〇
講師：学芸員 相田 優

○展示構成

- 1 アロサウルスとカンブリアサウルス
- 2 対決！ティラノサウルスとトリケラトプス
- 3 ジュラ紀のいきものたち
- 4 白亜紀の生きものたち
- 5 ふくしまの恐竜とジュラ紀・白亜紀の化石
- 6 恐竜時代の化石にさわってみよう



二〇一三年NHK大河ドラマ特別展 「八重の桜」関連講演会

四六日間にわたって開催された二〇一三年NHK大河ドラマ特別展「八重の桜」には、一般の方だけでなく、たくさんのお子様もご来場いただき、盛況のうちに閉幕を迎えました。ここでは、会期中に開かれた関連講演会をご紹介します。

描かれた幕末の会津藩

―追鳥狩図・蛤御門の変図を読み解く―

日時：五月二十九日（水）一四時～一五時四十五分

講師：茨城大学人文学部教授 高橋 修氏

戦国時代を中心とした合戦図屏風研究の第一人者である高橋氏が、特別展展示資料の「追鳥狩図屏風」と「蛤御門の変図屏風」に描かれている事象の持つ歴史的意義や図像構成などについて、分かりやすく解説してくださいました。「家世実紀」や図版など多くの資料を用いながらのお話は、会津藩と水戸藩の追鳥狩の比較や両図を描いた大須賀清光の画業など多岐にわたる、来場者からは「特別展を見る際の楽しみが増えた」、「今後、新たな視点で合戦図や屏風を見る事ができる」という声が寄せられました。なお講演に先駆け、古山が追鳥狩図・蛤御門の変図に描かれた幕末期の会津藩について説明を行いました。また講演会後には展示室内の資料を前に、高橋氏がお客様との質問にお答えになる姿も見られました。



企画委員が語るNHK大河ドラマ特別展「八重の桜」1

日時：六月二日（水）一四時～一五時四十五分

〈基調講演〉 昭和三年と会津

講師：財団法人歴史文化財団江戸東京博物館学芸員 齋藤 慎一氏

〈シンポジウム〉

NHK大河ドラマ特別展「八重の桜」の魅力

パネリスト： 齋藤 慎一氏

福島県立博物館学芸員

司会：福島県立博物館学芸員

高橋 充

二部構成で実施され、第一部の

基調講演では、齋藤氏が昭和三年に焦点をあててお話しくださいました。エピソードに大きく掲げられた「京都府会秋季例会記念集

合写真」から読み取れる会津出身者たちの思いや絆を紹介した後、齋藤氏が調査にあたった東京都渋谷区松濤の松平恒雄邸（平成七年

解体）について解説いただきました。質素ながらも良質の木材を用いた建物であったことや邸内各所で会津出身者の女性が働いていたことなど、興味深い話を聞かすことができました。第二部のシンポジウムでは、話題が勢津子妃のご成婚から展示図録作成の苦労話にまで及び、普段は聞くことができない裏話の連続に、会場は笑いにつつまれていました。



なお特別展展示図録には、齋藤氏の論考「昭和三年と会津―松平恒雄とその邸宅から―」が掲載されています。こちらもぜひご覧ください。

企画委員が語るNHK大河ドラマ特別展「八重の桜」2

日時：六月二六日（水）一四時～一五時四十五分

〈基調講演〉 幕末京都の活力

講師：京都府京都文化博物館学芸員 西山 剛氏

〈シンポジウム〉

幕末・明治の京都―覚馬と襄、新選組―

パネリスト： 西山 剛氏

同志社大学同志社社史資料センター社史調査員

小枝 弘和氏

司会：福島県立博物館学芸員

古山 智行

幕末から明治にかけての京都にスポットあてた講演会には、二一五名の方が来場なさいました。第一部の基調講演では、講師である西山氏が研究テーマとしている禁裏駕輿丁を例に挙げながら、民衆層の技術や知の集積が幕末期の京都における秩序の形成に大きな役割を果たしたことが説明されました。第二部は、西山氏と小枝氏をパネリストに迎え、シンポジウムを実施しました。

来場者からの質問を織り交ぜながら議論が展開され、幕末期の京都における会津藩の活躍や「山本覚馬建白（管見）」に対する評価、八重・覚馬・襄が見た明治初期の京都の様子、襄が学校設立の地に京都を選んだ理由などが話題となりました。



その他、六月一日（土）には後援事業として同志社女子大学主催講演会「八重が結ぶ会津と京都」が開催され、同大の吉海直人教授による基調講演「八重と会津と板かるた」と吉海氏、若松城天守閣郷土博物館の湯田祥子氏、古山によるトークセッションを行いました。

最後に、六月二日（水）に総入場者二万人、六月二九日（土）に総入場者二万人突破を記念したセレモニーを実施したこともご紹介しておきます。

（歴史担当：古山智行）

会津の半唐箕

Q…わが国で唐箕は、いつごろから使われているのですか。

A…唐箕は、人力で風を起し穀物に混じっている塵などを吹き飛ばす農具です。唐箕と呼ばれるように、わが国では中国から江戸時代中期の元禄時代（一六八八〜一七〇三）のころから使われたというのが通説でした。しかし、貞享元年（一六八四）の佐瀬与次右衛門著の『会津農書』には、「今颯扇を仕ふハまれ二有」と、当時会津地方で唐箕が使われていたことが記載されており、わが国では元禄時代以前から使われていたことが分かりました。

年号が書かれた会津の半唐箕があり、江戸時代から会津の半唐箕が使われていたことが分かります。

Q…唐箕は現在も使われていますか。

A…唐箕は、現在もほとんど形態を変えることなく使われている農具です。唐箕は、専門の職人によって製作される場合が多かったようです。会津地方には「北田唐箕」と呼ばれ、河沼郡湯川村北田の北田家が製作にあたってきました。「北田久内」の焼印が刻銘されており、代々襲名して製作してきました。唐箕は現在でも金属製の小型化されたものが製作さ

Q…会津の半唐箕は、どのような形態のものですか。
A…唐箕はわが国の農具の歴史で最大級のもので、伝来した当時は最新型の機械的な農具でした。わが国の唐箕は、選別された穀物が出る樋口が、両側または片側に軽重により二口に付けられているのが一般的な形です。しかし会津地方には、樋口が無く真下に落下する構造のものがあり、これを半唐箕と呼んでいます。構造的には原初的で、形も小さいところから、半唐箕と呼ばれるようになったとみられます。半唐箕に対し、樋口のあるものを本唐箕と呼びます。山形県米沢市には、天保八年（一八三七）の



半唐箕（当館蔵）

Q&A
回答者
佐々木長生
民俗担当



館稲荷神社の農耕絵馬（右上・半唐箕、左下・本唐箕）

れ、販売されています。唐箕は高価なものであったため、農家では大切に保管し、使用してきたものとみられます。そのため、購入当時の年月日や所蔵者をはじめ、当時の米の値段や大工の日当などを記載したものが残っています。南会津町には、文化五年（一八〇八）の地元の大工が製作した唐箕があります。東日本では最古のものとみられます。わが国最古の唐箕は京都府にある明和四年（一七六七）銘のもので、『会津農書』著述の八〇年後になります。喜多方市熊倉町の館稲荷神社の明治四〇年に奉納された農耕絵馬には、半唐箕の使用風景も描かれています。会津若松市内の農家には現在も半唐箕が所蔵されており、時々使用しているようです。

謎の方墳を推理する

荒木 隆 考古担当

大熊町教育委員会で所蔵していた資料の一部が東京電力福島第一原子力発電所事故後に当館に寄託されました。この資料は、ちょうど事故の際に大熊町外で保管されていたものでしたが、今回、当館部門展示室で町内から文化財レスキュー事業で救出された資料に寄託された資料をあわせて展示することになりました。

寄託された資料を調査した結果、「柵和子古墳」と登録されている遺跡が非常に珍しい性格のものであることが分かりましたので、今回はその遺跡について御紹介します。

1 柵和子古墳の調査成果

この遺跡は、大熊町の北東部を流れる夫沢川の北岸にあり、昭和六〇年に発掘調査が行われています。当初は円墳と考えられていましたが、発掘調査が進むにつれ、特殊な方墳であることが分かってきました。

通常、方墳は方形に溝（周溝）を巡らし、その内部に土を盛りあげてマウンド（墳丘）を作ります。墳丘の中央部付近に穴を掘って棺を埋葬しますが、この古墳では墳丘部分に棺を埋めた痕跡が無く、墳丘部分には棺を埋葬していないと考えざるを得ません。

一方、周溝の中には通常の方墳には見られないような石を舟形に敷き詰めた部分が周溝の中央部から発見され、このような石敷きは周溝の四辺すべてにあります。

このような石敷は、古墳に棺を安置する際に作ら

れる場合がありますが、発掘調査の際には石敷きの上に棺を安置した痕跡も発見されませんでした。

つまり、この古墳には、誰も埋葬されていない可能性が高いということです。古墳は豪族のお墓と考えられていますので、だれも埋葬されないとすれば古墳とは呼べなくなってしまうです。

さらに石敷きの周囲、特に周溝の四隅の部分には、須恵器の大甕の破片をまとめて置いてあることもわかりました。須恵器の大甕は儀式の際に使用するお酒などの液体を貯蔵する器ですので、ここで何らかの儀式が行われ、その儀式が終わった後に、わざわざ大甕を壊して周溝の四隅に割れた破片をまとめて置いているのです。

周溝からは大甕以外にも四耳壺や甗（はそう）、杯、長頸壺などが発見されており、儀式で使った器などを周溝の中に置いていったようです。これらの須恵器は、その形態から七世紀末ごろのものと考えられ、飛鳥時代の終わりごろのものであることが分かりました。

2 柵和子古墳の性格

柵和子古墳は、外形は古墳のような形をしています。埋葬された形跡がなく、しかも飛鳥時代の終わりごろには、県内ではほとんど古墳は造られなくなっていることから、古墳と呼ぶには抵抗があります。

このような遺跡が他の地方にないか、いろいろと調べている最中ですが、今のところ、「柵和子古墳」と同じような遺跡は全国を探してもありません。

それでは、この遺跡は何だったのでしょうか。千葉県石岡市にある上人塚遺跡一号周溝状遺構が参考となりそうです。この遺跡は、やはり四角く溝が周り、墳丘は確認されていませんが、方墳のような形

をしています。周溝の各辺に油煙の付いた杯が列に並んで置かれています。時期は八世紀後半から九世紀前半ごろと考えられており、少し時期は違いますが、一列に物を並べ、様子に共通性を感じられます。この遺跡では、明かりをつけた杯を周溝の溝の中に並べ、儀式を行っていると考えられます。

このような例を参考に考えると、「柵和子古墳」も周囲の溝に供え物などを並べて、四角い土壇の上で何らかの儀式を行ったのではないかと考えています。

この遺跡の周辺には、柵和子B遺跡や下団子橋遺跡など、瓦が見つかると、同時か集まっており、当時の瓦は寺院か役所でしか使用されていなかったことを考えると、「柵和子古墳」で行われた儀式は寺院や役所と関係のあるものであった可能性もあります。



周溝内出土須恵器



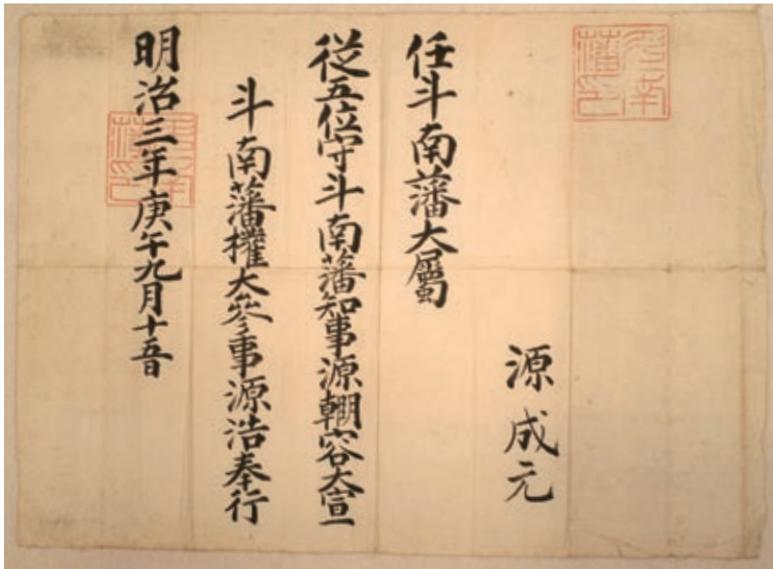
1号墳全景

テーマ展「ふるさとの考古資料4【大熊町】遺跡探訪」では、謎の「柵和子古墳」の資料を含め、大熊町内の遺跡から出土した資料がたくさん展示されていますので、ぜひ展示をご覧ください。古代の大熊町へ空想の翼を広げてみるのはいかがでしょうか。会期は平成二六年五月一日（日）までです。

テーマ展「資料でたどる山川浩と健次郎」

会 期：平成25年7月20日(土)～9月23日(月祝)
 会 場：県立博物館部門展示室「歴史・美術」

会津藩に生まれ育った山川浩（1845年～1898年）と山川健次郎（1854年～1931年）兄弟を取り上げます。山川家寄託資料を中心にして、それぞれの人物像を解説します。家族そろって撮影した写真には彼らの妹の大山捨松も写っています。



斗南藩辞令書（個人蔵）

秋の企画展 予告

東北大学総合学術博物館のすべてⅧ

「考古学からの挑戦」

―東北大学考古学研究所の軌跡―

今秋、東北大学に所蔵されている考古資料が一堂に会します。これらの多くは普段、東北大学片平キャンパス内にある文学研究科考古学陳列館に収蔵されており、その一部は東北大学総合学術博物館において一般に公開されています。このなかには、東北地方各地の縄文時代遺跡を精力的に調査し、日本の縄文文化研究に大きな業績を残した山内清男や、東北地方の弥生時代研究で常に指導的な立場にあつた伊東信雄などが、その調査・研究のなかで収集し、学説の根拠としてきた重要な資料が含まれています。また、歴史の教科書などでよくとりあげられる遮光器土偶や青森県亀ヶ岡遺跡出土の縄文土器、重要文化財に指定されている宮城県沼津貝塚の骨角器など、縄文文化を代表する資料もご覧いただけます。

秋のひととき、博物館で考古学の世界をご堪能ください。皆さまのご来場をお待ちしております。



遮光器土偶（秋田県藤森遺跡）

■会期：平成二五年一〇月五日～二月一日

特別展

2013年NHK大河ドラマ特別展「八重の桜」
会期 5月17日(金)～7月3日(水)

企画展

夏の企画展
「震災復興」

国立科学博物館コラボミュージアムin会津若松
『対決！恐竜展 ティラノサウルスとトリケラトプス』
会期 7月27日(土)～9月16日(月)

◎夏の企画展関連行事

「展示解説会」

日時 7月28日(日) 13時30分～14時30分
会場 福島県立博物館 企画展示室

講師 学芸員 相田 優

「記念講演会『最新恐竜学』」

日時 8月11日(日) 13時30分～15時
会場 福島県立博物館 講堂

講師 国立科学博物館研究主幹 真鍋 真さん

「展示解説会」

日時 8月11日(日) 15時30分～16時30分
会場 福島県立博物館 企画展示室

講師 国立科学博物館研究主幹 真鍋 真さん

「実技講座『ペーパーアートで恐竜をつくる』」

日時 8月24日(土) 13時30分～15時
会場 福島県立博物館 実習室

講師 美術家 半沢政人さん

「展示解説会」

日時 9月16日(月) 13時30分～14時30分
会場 福島県立博物館 企画展示室

講師 学芸員 相田 優

テーマ展

※常設展料金でご覧になれます

「ふるさとの考古資料4『大熊町』遺跡探訪」

会期 6月18日(火)～平成26年5月11日(日)

「資料でたどる山川浩七健次郎」

会期 7月20日(土)～9月23日(月)

ポイント展

※常設展料金でご覧になれます

「近世に書かれた中世の城絵図」

会期 4月6日(土)～7月19日(金)

「伝統の継承」

―福島県立会津工業高校所蔵逸品ギャラリー―
会期 4月6日(土)～12月15日(日)

「八重の時代の会津人」

会期 4月6日(土)～12月27日(金)

「伝来資料にみる土津神社V.O.I.C」

会期 6月29日(土)～9月27日(金)

「近世農具の発展」

会期 7月18日(木)～10月9日(水)

「会津藩名氏・伊達政宗の文書」

会期 7月20日(土)～12月27日(金)

「土偶ちゃん♡」

会期 7月25日(木)～12月8日(日)

「落下傘で作った着物」

会期 8月1日(木)～8月28日(水)

「江戸から会津へ―幕末の道中絵図にみる詰藩と宿場」

会期 9月28日(土)～12月27日(金)

木曜の広場

「会津風土記・風俗帳の世界」4

日時 7月18日(木) 13時30分～15時
会場 福島県立博物館 講堂

講師 館長 赤坂憲雄

「会津風土記・風俗帳の世界」5

日時 8月15日(木) 13時30分～15時
会場 福島県立博物館 講堂

講師 館長 赤坂憲雄

「会津風土記・風俗帳の世界」6

日時 9月19日(木) 13時30分～15時
会場 福島県立博物館 講堂

講師 館長 赤坂憲雄

講演・講座

※は要申込

◎実技講座

※「そばザル作り」

日時 7月6日(土) 13時30分～16時

会場 福島県立博物館 実習室

講師 伝統技術保持者 菅家藤一さん ほか

◎考古学講座

※「縄文土器を作る」

日時 8月3日(土) 10時～15時

8月4日(日) 10時～15時

会場 福島県立博物館 実習室

講師 学芸員 森 幸彦 ほか

※「土器の野焼き」

日時 9月22日(日) 10時～15時

会場 野外

講師 学芸員 森 幸彦 ほか

◎歴史講座

「八重の時代の会津人1」

日時 8月31日(土) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館 講堂

講師 学芸員 佐藤洋一

「八重の時代の会津人2」

日時 9月14日(土) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館 講堂

講師 学芸員 阿部綾子

ミュージアムイベント

「夏休み恐竜ナイトミュージアム」

日時 8月17日(土) 17時30分～19時

会場 福島県立博物館 エントランスホール・展示室

講師 学芸員

「第4回市民盆踊り」

日時 8月15日(木) 19時～20時30分

会場 福島県立博物館 正面玄関前庭

共催 会津磐梯山盆踊り保存会

実演

「昔語り」

日時 9月8日(日) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館 体験学習室

講師 語り部 横山幸子さん

後援事業

復興応援パートナー事業「第11回民家の甲子園全国大会」

日時 8月4日(日) 9時～17時

会場 福島県立博物館 講堂

内容 全国高等学校対抗民家町並みフォトコンテスト

指導者向け研修会

「博物館管理用指導者研修会」

会期 7月31日(水) 9時30分～16時

場所 福島県立博物館 視聴覚室・実習室

講師 学芸員 古山智行 ほか

※要申込の行事は基本的に開催日の1ヶ月前から募集を開始しますが、異なる場合もありますのでお問い合わせください。

※その他、行事等の詳細に関しては、月行事予定やホームページをご覧ください。

常設展無料開放日

8月21日(水) 県民の日

7月～9月の休館日

7月8日(月)・16日(火)・22日(月)・29日(月)

8月5日(月)・19日(月)・26日(月)

9月2日(月)・9日(月)・17日(火)・24日(火)・30日(月)